

山形市聴こえくっきり事業

事業開始 | 令和4年12月

山形市では医・産・学・官が連携し、普及啓発、アプリによる早期発見、補聴器相談医による診察や補聴器購入支援等の早期対応、補聴器相談医や認定補聴器専門店によるフォローアップ、データ分析までの一連の事業をパッケージ化し、健康寿命の延伸のため総合的なヒアリングフレイル対策を実施しています。

医・産・学・官の連携



山形大学医学部



山形市医師会



山形県
言語聴覚士会



一般社団法人
日本補聴器販売店協会



ユニバーサル・
サウンドデザイン株式会社



山形市

1

普及啓発

ヒアリングフレイルが心身の機能に与える影響やその対策について理解を深める。

- ・介護予防教室の開催
- ・リーフレットによるヒアリングフレイルの周知

2

早期発見

ヒアリングフレイルの状態にある方の早期発見を行う。

- ・アプリを使った聴きとる脳力のチェックの実施→チェック実施会場で聞こえに心配ある方の言語聴覚士の個別相談、補聴器相談医への受診勧奨
- ・補聴器相談医(耳鼻咽喉科)への受診

3

早期対応

適切な対応により聴力の機能維持を図る。

- ・補聴器相談医(耳鼻咽喉科)による診察・検査
- (必要時)補聴器装用の勧め(処方箋発行)、使用方法の指導、認定補聴器専門店の紹介
- ・認定補聴器専門店での補聴器の選定、調整、使用方法の指導
- ・補聴器購入費支援(該当者に一部補助)

4

フォローアップ (補聴器装用者対象)

補聴器装用者の継続的かつ効果的な補聴器利用につなげる。

- ・補聴器相談医(耳鼻咽喉科)を定期受診し補聴器装用による聞こえの状態の確認・評価
- ・認定補聴器専門店によるアフターケア(聞こえの効果測定・補聴器調整・補聴器相談医との連携)

5

データ分析

事業参加者の聞こえや活動意欲・行動等に生じた変化を把握し分析する。

- ・事業参加者を対象としたアンケート調査の実施
- ・アンケート結果をもとに、聞こえによる社会参加、行動への影響や変化を分析

〈問合せ〉山形市 福祉推進部 長寿支援課

〒990-8540 山形市旅籠町 2-3-25

tel. **023-641-1212** (内線 567・568・599)

fax. **023-624-8398**

令和6年3月発行

山形市聴こえくっきり事業リーフレット
表紙・キャッチコピー・キャラクターデザイン・挿絵
東北芸術工科大学 グラフィックデザイン学科

山形市聴こえくっきり事業

耳で意識、
やまがたの四季。



ヒアリングフレイルについて知ろう！

ご自身やご家族に こんな「気になる」はありませんか？

！4つ以上当てはまると聴力低下による“フレイル”のリスクが！

Check

- 家族にテレビやラジオの音量が大きいと言われることがよくある
- 相手の言ったことを推測で判断することがある
- 外出することが億劫になった
- 会議や会食など複数人の会話がうまく聞き取れない
- 話し声が大きいと言われる
- 会話をしている時に聞き返すことが増えた
- 大きな声で話しかけられてもうまく聞き取れず聞こえたふりをしてしまう

はてピー
山形市聴こえくつきり事業
イメージキャラクター



外に出かけるのが
ちょっとイヤに
なってきた…

 チェック項目が気になる時はもしかしたら

「ヒアリングフレイル」 が原因かもしれません

最近会話が
楽しめない…

ヒアリングフレイルってなに？

ヒアリングフレイルとは「**聞き取る機能の衰え**」

つまり、難聴を意味するとともに、それによって周囲とのコミュニケーションなどに問題が生じ、関わり合いが大きく変化し

「**心身機能の衰え＝フレイル傾向**」となってしまうことも含みます。

聴力が年齢とともに低下していくことはよく知られていますが、聴力が低下した状態になると“認知症傾向”と勘違いされているケースも多く、周囲も本人も気付きにくい特徴があります。

難聴の有病率は
65歳から急激に増加します

年代	男性	女性
60～64	18.8%	10.6%
65～69	43.7%	27.7%
70～74	51.1%	41.8%
75～79	71.4%	67.3%
80～	84.3%	73.3%

急激に
増加

表：難聴の有病率 ※25dB(デシベル)以上
出典：国立長寿医療研究センター「老化に関する長期縦断疫学研究」

ヒアリングフレイルを そのままにしておくと…

- 自分に自信がなくなっていく
- 人との会話や交流をさける
- 家から出ず閉じこもりがち
- 刺激がなく身体機能の低下に

耳から入る音の刺激が減ることで脳への刺激が減り

認知症に繋がるリスクが 高まります

Lancet(2017年、2020年改訂版)によれば、認知症の医学的介入が可能な**危険因子として難聴が8%とされ、他の危険因子と比べて最も影響が大きい**とされています。



ヒアリングフレイル 予防と対策

1 「自分で」「周囲が」 聞こえにくさを 早期発見する

家族や周囲の方が積極的に会話したりアプリやチェックリストを活用して早期発見に努め、耳に優しい生活を意識した生活を送りましょう。



お持ちのスマホやタブレットでも聴力チェックアプリがお試しください！



2 聞こえについて 相談できる医師を 見つけておく

耳鼻咽喉科医師(特に補聴器相談医の資格をもった耳鼻咽喉科医師)への受診や相談、必要であれば早期に補聴器を装着し聴力を維持することが大切です。



くつきり聴こえることで
日々をもっと
豊かに暮らすことができます

食事中での会話が一緒に楽しめる、
名前を呼ばれて気付ける、
大切な人の声が聴ける、
地域の行事を楽しめる、
自然の音色で四季を感じられる…

